

〈研究ノート〉

# 大学生の生成 AI 利用

——2023 年 4 月の心理科学科生の実態——

島 井 哲 志\*

Generative Artificial intelligence use among university students:  
Use of ChatGPT among psychology students in April 2023

Satoshi Shimai

**要旨：**生成 AI は 2023 年の 1 月以降、わが国できわめて急速に普及しつつある。そこで、大学生の利用実態を把握するための質問項目を ChatGPT に作成させ、それを修正した質問票を作成した。この質問票を用いて ChatGPT に関する調査を 2023 年 4 月に実施し、心理科学科の学生 256 名から回答を得た。その結果、およそ 50% の学生が ChatGPT を知らず、80% 以上の学生が ChatGPT を利用していないことがわかった。利用している学生もその多くはまだ十分にその機能を理解しておらず、使用頻度は極めて低かったが、高学年のほうがやや利用が多かった。この現状から、本学では学生に生成 AI 利用に注意喚起する必要性は高くないと考えられた。しかし、心理学領域での利用の浸透と教員による生成 AI の活用の導入を考慮すると、今後の方針の検討を始める必要性は高いといえる。

**Abstract:** Generative AI has been rapidly spreading in Japan since January 2023. To understand university students' usage of ChatGPT, a generative AI model, a questionnaire was firstly developed using ChatGPT itself and modified by the author, which demonstrated an example to use generative AI in academic setting. The survey was conducted in April 2023, with 256 psychology students as the respondents. It was found that approximately 50% of the students were unaware of ChatGPT, while more than 80% did not use it. Many of the users did not fully understand its functions. Frequency of use was also extremely low, with higher grade students tending to use it more. The findings suggest that it is unnecessary for our university to raise awareness about the use of generative AI among students. However, considering its penetration in the field of psychology and the introduction of its use by faculty members, it is necessary to begin considering relevant future policies.

**Key words：**生成 AI Generative AI 大学生 College Students ChatGPT 心理学 Psychology 利用実態 Actual Usage

## はじめに

生成 AI (Generative Artificial Intelligence) は、文章の生成だけではなく、画像も生成する機能をもつ AI モデルの総称であるが、現在、大学教育に対して大きな影響力をもつようになると予測されているのは、テキストを生成する ChatGPT を代表とする AI である。その基本的な仕組みは、これまでの機械学習と同じように、過去の材料を学習することによりモデルを作成し、それに基づいてテキストを生成するという仕組みとされる。

その代表格である ChatGPT は OpenAI 社が 2020 年に発表し、2022 年 11 月には GPT3 (Generative Pre-trained Transformer-3) を一般公開した。また、2 月 2 日にはサブスクリプションプラン ChatGPT Plus を公表し、無料提供よりも充実したサービスを提供している。Chat と呼ばれるように、日本語を含めて言葉で投げかけた質問に対して言葉で回答するチャットボットであるが、注目されているのは、その出力の素早さと、回答の質が人間が書いた文章と区別がつかないレベルにあることである。このことから、レポートや論文など、文章で表現す

受付日 2023. 5. 9 / 掲載決定日 2023. 8. 1

\*関西福祉科学大学 心理科学部 教授

る課題を、学生が自分では考えないで作成・提出してしまう可能性が危惧されるのである。

ChatGPT については、現在、急速に利用者が拡大しつつあるとされるが (東京新聞 2023 年 4 月 10 日)、この変化を受けて、ChatGPT を国会答弁に活用することや、行政文書の作成に利用することなどの議論がニュースとして報道されてきた。そして、政治家が自分自身の名前を入れ、どんな人物かを回答させたところ、全く事実と違った、しかし、あたかもそれらしい回答が得られたということもニュースとして報道された (毎日新聞 2023 年 4 月 18 日)。

そして、大学における活用についても今後に向けて検討が始まっている。方向性のひとつは、その活用を制限することである。制限する理由のひとつは、質問が AI の学習材料として活用されることから、自分が質問することによる個人情報の流出を防ぎ、情報を管理する必要があることである。これは、現在の生成 AI に、既成の法制度が追いついていないことの反映であり、社会制度の整備が求められるだろう。

利用制限のもうひとつの理由は、成績評価の公平性を保証するための対策としてのものである。先に紹介したように不正確な情報が含まれているという問題だけではなく、成績評価につながるレポートや論文を、本人ではなく生成 AI によって作成して提出する場合には、提出者を過大に評価するという結果になり、不正につながる可能性があるからである。東大新聞オンラインでは、教育・情報担当の副学長が ChatGPT に対応し、成績評価の際に、教員が対面審査や筆記試験を組み合わせる必要があるとしている。

また、上智大学では在学生に向けて、AI チャットボットが作成した文章やプログラム、計算結果は、本人が作成したものではないので、使用を認めないという方針を発表している。この方針は、2023 年度の履修要覧にも明示されているとのことである (上智大学ホームページ)。東北大学のオンライン授業ガイドでは、2023 年の 3 月に ChatGPT に関するページが追加された。学生向きガイダンスでは、授業によっては、ChatGPT の利用が、剽窃とみなされる場合があることが警告されている。また、教員向けのガイダンスでは、課題内容や出題方法を工夫するなどの評価の注意が示されている。

ここでは、一般公開から時間の立っていない 2023 年 4 月時点での本学の心理科学科の学生の ChatGPT 利用の実態を知り、今後の教育における対応の基礎データを提供することを目的とした。調査内容は、ChatGPT 利用実態の調査項目に関する質問を、ChatGPT に考案させて、得られた質問項目を元に修正して作成した。つま

り、この調査は、ChatGPT 自身による、その利用実態に関する調査結果を示すものである。したがって、調査内容が妥当であるかどうか、ChatGPT の機能を反映している。

## 方 法

調査日時と手続き：2023 年 4 月 23 日から 30 日に、1 年生から 3 年生については、本学心理科学科の専門必修授業の出席者を対象に、また、4 年生では必修の講義がないので選択科目の授業出席者を対象として、授業支援システムのマナバの小テスト機能により質問を提示し、それに対して各自がスマホから回答した。調査開始時に、口頭でこの調査が今後の教育のためのものであることを説明し、また、小テストのはじめにも説明文を掲載した。

対象者：授業の受講者には過年度生や他学部生も部分的に含まれている。4 授業について回答の重複を除くと、履修登録者数は 319 で、有効回答数は 266 であり、そのうち心理学科生は 256 名であった。学年間の比較を明確にするためには、科目配当年次の心理科学科の学生のみを選択し、学年別の集計では 1 年生 72 名、2 年生 64 名、3 年生 71 名、4 年 40 名の合計 247 名を分析対象とした。

調査内容：ChatGPT に「心理学専攻大学生の ChatGPT の利用実態の質問 10 問」の提案を依頼して作成させ、質問文や選択肢を調整して実施した。内容は、ChatGPT について、1 知ったきっかけ、2 利用目的、3 利用頻度、4 満足度、5 活用度、6 新しい学び、7 情報収集の変化、8 不便な点、9 注意点、10 改善要望であった。質問文とその回答選択肢の詳細を表 1 に示した。ChatGPT の回答を調整した点としては、選択肢をより詳しく整理し、また、今回の調査では利用者が少ない可能性を考慮して、選択肢に「利用していない」という回答を付加したことが大部分である。

分析方法：統計的分析には SPSS28 を用いた。学年と利用実態のクロス集計結果については  $\chi^2$  乗検定を用いて有意性を検討した。

倫理的配慮：調査の実施にあたっては十分なインフォームドコンセントの手順を確認し実施した。また、データ処理においては匿名化をはかり個人情報の保全に努めた。本研究は教育実践の向上をめざした実態調査で、結果は今後の大学教育に活かすものであり、生命科学研究所の研究倫理審査の対象ではない。

結 果

1. ChatGPT 利用の実態

表 1 に、10 問の質問と選択肢への回答を示した。

第 1 問では、ChatGPT を知らないという回答したのが全体の 45.7% であり、この調査時点では、約半数が聞いたことがないという状況であったことを示した。一方、知っているという回答の中ではインターネットで見かけたという回答が約 75% と大部分であった。

第 2 問では、利用していないという回答が全体の 81% であることが示されており、利用者は 20% 未満であった。利用者の中では、知識や情報を習得するために利用する割合が最も多く、利用者の 35% であり、コミュニケーションは 18%、課題や研究のためは 12% であった。

第 3 問の利用頻度の質問では、利用していないという回答が 87% であり、利用していても月に数回あるいはそれ以下が 82% と大部分であった。毎日利用する人は 0 人であり、この時点で、ChatGPT 利用の頻度はかなり低いというのが実態であった。

第 4 問の利用の満足度では、40 人の利用者の 43% がかなり満足している、あるいは、非常に満足していると回答している。つまり、利用している学生にとっては、満足していると回答している割合は多い。

2. ChatGPT 利用の課題

第 5 問以降は、活かし方に関するものであり、第 5 問は課題や研究への活かし方であるが、利用がある場合にも、全く生かしていないという選択が最大で 42% であった。第 6 問は、利用によって自分が知らなかったことを学んだかを聞いているが、ここでは最大が少し学ぶことができたという選択で 49% であった。第 7 問の利用で調査や情報の収集方法が変わったかについては選択回答が広く分布し、大幅あるいはかなり変わった人であれば、あまりあるいは全く変わっていない人も少なくなかった。

第 8 問は、ChatGPT 利用にあたっての不便についての質問であるが、最も選択が多かった回答は、回答が適切でないことがあるであり、利用している人のうちの 53% であった。一方、不便に関する点が特にないの回答も 25% あった。第 9 問は利用に際して気を付けていることを聞いているが、最も多かった回答は、疑問点がある場合は他の情報も参照するという回答で、50% が選択していた。クロス分析によれば、第 8 問の回答が適切ではない場合の 53% を占めていた ( $\chi^2=271.62, p < .001$ )。第 10 問は、ChatGPT に改善してほしい点だ

表 1 質問と回答の度数分布 (n=256)

質問	n	%
1. ChatGPT を知ったきっかけは何ですか？		
① インターネットで見かけた	104	40.60%
② 友人や知人からの紹介	8	3.10%
③ 書籍や記事	7	2.70%
④ 教員の勧め	7	2.70%
⑤ その他	13	5.10%
⑥ 知らない	117	45.70%
2. ChatGPT を利用する目的は何ですか？		
① 様々な知識や情報を習得するため	17	6.60%
② 自分の課題や研究に役立てるため	6	2.30%
③ コミュニケーションの手段として利用するため	9	3.50%
④ 教育・学習の一環として	4	1.60%
⑤ その他	13	5.10%
⑥ 利用していない	207	80.90%
3. ChatGPT を利用する頻度はどの程度ですか？		
① 毎日利用している	0	0%
② 週に数回利用している	6	2.30%
③ 月に数回利用している	12	4.70%
④ それ以下	16	6.30%
⑤ 利用していない	222	86.70%
4. ChatGPT の回答に対して満足度はどの程度ですか？		
① 非常に満足している	4	1.60%
② かなり満足している	13	5.10%
③ 少し満足している	11	4.30%
④ どちらとも言えない	7	2.70%
⑤ 不満点がある	5	2.00%
⑥ 利用していない	216	84.40%
5. ChatGPT で得た知識を実際の課題や研究にどの程度活かしていますか？		
① 非常に活かしている	1	0.40%
② かなり活かしている	5	2.00%
③ 少し活かしている	7	2.70%
④ あまり活かしていない	6	2.30%
⑤ 全く活かしていない	14	5.50%
⑥ 利用していない	223	87.10%
6. ChatGPT を利用することで、自分が知らなかったことを学ぶことができましたか？		
① 非常に学ぶことができた	5	2.00%
② かなり学ぶことができた	7	2.70%
③ 少し学ぶことができた	17	6.60%
④ あまり学ぶことができなかった	2	0.80%
⑤ 全く学ぶことができなかった	4	1.60%
⑥ 利用していない	221	86.30%
7. ChatGPT を利用することで、今までの調査方法や情報収集方法が変わりましたか？		
① 大幅に変わった	5	2.00%
② かなり変わった	6	2.30%
③ 少し変わった	6	2.30%
④ あまり変わっていない	8	3.10%
⑤ 全く変わっていない	7	2.70%
⑥ 利用していない	224	87.50%
8. ChatGPT を利用する際に不便だと感じる点がありますか？		
① 特にない	9	3.50%
② 回答に時間がかかることがある	6	2.30%
③ 回答が適切でないことがある	19	7.40%
④ その他	1	0.40%
⑤ 利用していない	221	86.30%
9. ChatGPT を利用する際に気を付けていることはありますか？		
① 特に気を付けていない	6	2.30%
② 情報源や引用元を確認する	8	3.10%
③ 疑問点がある場合は他の情報源も参照する	18	7.00%
④ その他	4	1.60%
⑤ 利用していない	220	85.90%
10. ChatGPT に改善してほしい点がありますか？		
① 特にない	12	4.70%
② より高度な知識や情報に対応してほしい	13	5.10%
③ 回答に必要な情報が不足していることがある	8	3.10%
④ その他	3	1.20%
⑤ 利用していない	220	85.90%

表 2 学年別の回答分布表 (n=247)

	学年							
	1		2		3		4	
	n	%	n	%	n	%	n	%
1. ChatGPT を知ったきっかけは何ですか？								
① インターネットで見かけた	26	36.10%	29	45.30%	23	32.40%	23	57.50%
② 友人や知人からの紹介	0	0.00%	2	3.10%	3	4.20%	3	7.50%
③ 書籍や記事	1	1.40%	2	3.10%	2	2.80%	1	2.50%
④ 教員の勧め	3	4.20%	0	0.00%	3	4.20%	1	2.50%
⑤ その他	0	0.00%	7	10.90%	4	5.60%	2	5.00%
⑥ 知らない	42	58.30%	24	37.50%	36	50.70%	10	25.00%
	72	100.00%	64	100.00%	71	100.00%	40	100.00%
( $\chi^2=28.09$ , $df=15$ , $p<.05$ )								
2. ChatGPT を利用する目的は何ですか？								
① 様々な知識や情報を習得するため	4	5.60%	4	6.30%	3	4.20%	4	10.00%
② 自分の課題や研究に役立てるため	1	1.40%	2	3.10%	1	1.40%	2	5.00%
③ コミュニケーションの手段として利用するため	1	1.40%	1	1.60%	4	5.60%	2	5.00%
④ 教育・学習の一環として	2	2.80%	0	0.00%	1	1.40%	1	2.50%
⑤ その他	2	2.80%	4	6.30%	2	2.80%	3	7.50%
⑥ 利用していない	62	86.10%	53	82.80%	60	84.50%	28	70.00%
	72	100.00%	64	100.00%	71	100.00%	40	100.00%
( $\chi^2=11.18$ , $df=15$ , $ns$ )								
3. ChatGPT を利用する頻度はどの程度ですか？								
① 毎日利用している	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%
② 週に数回利用している	0	0.00%	2	3.10%	2	2.80%	1	2.50%
③ 月に数回利用している	1	1.40%	1	1.60%	4	5.60%	6	15.00%
④ それ以下	3	4.20%	6	9.40%	1	1.40%	4	10.00%
⑤ 利用していない	68	94.40%	55	85.90%	64	90.10%	29	72.50%
	72	100.00%	64	100.00%	71	100.00%	40	100.00%
( $\chi^2=20.81$ , $df=15$ , $p<.05$ )								
4. ChatGPT の回答に対して満足度はどの程度ですか？								
① 非常に満足している	0	0.00%	2	3.10%	1	1.40%	1	2.50%
② かなり満足している	1	1.40%	5	7.80%	3	4.20%	3	7.50%
③ 少し満足している	3	4.20%	0	0.00%	2	2.80%	4	10.00%
④ どちらとも言えない	1	1.40%	2	3.10%	2	2.80%	2	5.00%
⑤ 不満な点がある	1	1.40%	1	1.60%	1	1.40%	2	5.00%
⑥ 利用していない	66	91.70%	54	84.40%	62	87.30%	28	70.00%
	72	100.00%	64	100.00%	71	100.00%	40	100.00%
( $\chi^2=17.58$ , $df=15$ , $ns$ )								
5. ChatGPT で得た知識を実際の課題や研究にどの程度活かしていますか？								
① 非常に活かしている	0	0.00%	0	0.00%	1	1.40%	0	0.00%
② かなり活かしている	0	0.00%	3	4.70%	1	1.40%	1	2.50%
③ 少し活かしている	1	1.40%	1	1.60%	1	1.40%	3	7.50%
④ あまり活かしていない	0	0.00%	1	1.60%	2	2.80%	3	7.50%
⑤ 全く活かしていない	2	2.80%	4	6.30%	2	2.80%	4	10.00%
⑥ 利用していない	69	95.80%	55	85.90%	64	90.10%	29	72.50%
	72	100.00%	64	100.00%	71	100.00%	40	100.00%
( $\chi^2=22.98$ , $df=15$ , $ns$ )								
6. ChatGPT を利用することで、自分が知らなかったことを学ぶことができましたか？								
① 非常に学ぶことができた	0	0.00%	1	1.60%	2	2.80%	2	5.00%
② かなり学ぶことができた	1	1.40%	3	4.70%	1	1.40%	1	2.50%
③ 少し学ぶことができた	1	1.40%	3	4.70%	4	5.60%	8	20.00%
④ あまり学ぶことができなかった	1	1.40%	0	0.00%	0	0.00%	1	2.50%
⑤ 全く学ぶことができなかった	0	0.00%	2	3.10%	1	1.40%	0	0.00%
⑥ 利用していない	69	95.80%	55	85.90%	63	88.70%	28	70.00%
	72	100.00%	64	100.00%	71	100.00%	40	100.00%
( $\chi^2=28.14$ , $df=15$ , $p<.05$ )								
7. ChatGPT を利用することで、今までの調査方法や情報収集方法が変わりましたか？								
① 大幅に変わった	0	0.00%	2	3.10%	2	2.80%	1	2.50%
② かなり変わった	0	0.00%	1	1.60%	1	1.40%	3	7.50%
③ 少し変わった	2	2.80%	0	0.00%	2	2.80%	2	5.00%
④ あまり変わっていない	0	0.00%	3	4.70%	1	1.40%	3	7.50%
⑤ 全く変わっていない	1	1.40%	2	3.10%	2	2.80%	1	2.50%
⑥ 利用していない	69	95.80%	56	87.50%	63	88.70%	30	75.00%
	72	100.00%	64	100.00%	71	100.00%	40	100.00%
( $\chi^2=20.57$ , $df=15$ , $ns$ )								
8. ChatGPT を利用する際に不便だと感じる点がありますか？								
① 特にない	1	1.40%	3	4.70%	3	4.20%	2	5.00%
② 回答に時間がかかることがある	0	0.00%	3	4.70%	3	4.20%	0	0.00%
③ 回答が適切でないことがある	2	2.80%	3	4.70%	2	2.80%	9	22.50%
④ その他	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	1	2.50%
⑤ 利用していない	69	95.80%	55	85.90%	63	88.70%	28	70.00%
	72	100.00%	64	100.00%	71	100.00%	40	100.00%
( $\chi^2=32.81$ , $df=15$ , $p=.001$ )								
9. ChatGPT を利用する際に気をつけていることはありますか？								
① 特に気をつけていない	0	0.00%	2	3.10%	1	1.40%	1	2.50%
② 情報源や引用元を確認する	1	1.40%	1	1.60%	3	4.20%	2	5.00%
③ 疑問点がある場合は他の情報源も参照する	2	2.80%	4	6.30%	4	5.60%	8	20.00%
④ その他	0	0.00%	3	4.70%	0	0.00%	1	2.50%
⑤ 利用していない	69	95.80%	54	84.40%	63	88.70%	28	70.00%
	72	100.00%	64	100.00%	71	100.00%	40	100.00%
( $\chi^2=23.84$ , $df=15$ , $p<.05$ )								
10. ChatGPT に改善してほしい点がありますか？								
① 特にない	3	4.20%	4	6.30%	1	1.40%	4	10.00%
② より高度な知識や情報に対応してほしい	1	1.40%	3	4.70%	3	4.20%	5	12.50%
③ 回答に必要な情報が不足していることがある	0	0.00%	2	3.10%	2	2.80%	2	5.00%
④ その他	0	0.00%	0	0.00%	2	2.80%	1	2.50%
⑤ 利用していない	68	94.40%	55	85.90%	63	88.70%	28	70.00%
	72	100.00%	64	100.00%	71	100.00%	40	100.00%
( $\chi^2=19.43$ , $df=15$ , $ns$ )								

が、より高度な知識や情報に対応してほしいが最も多かったが、回答はばらついていて、

### 3. 学年別の利用傾向

問1から問5について、学年別の回答分布と統計結果を表2に示した。第1問では、知らない割合は4年生ではかなり少なくなり、4年生では最も多かった選択はインターネットで見かけたで、58%と半数を超えていた。表に示したように、この回答の偏りは統計的に有意であった。ただし、4年生は選択授業であるので標本の偏りである可能性もある。

問2の回答でも、知識や情報を取得するためという選択が10%となっており、就職や卒業研究などの必要性から、4年生ではネット利用が高まっている可能性もある。利用していない割合も低学年では8割以上だが4年生では7割であった。しかし、この違いは統計的には有意でなかった。

問3のChatGPTの利用頻度を見ると、月に数回以上の頻度で利用している割合の合計は1年生1%、2年生5%、3年生8%に対して4年生は18%と最も多い。利用していない割合も4年生では少なく、これは統計的に有意であった。問4と問5の満足度や活用については学年による明確な違いは見当たらなかった。表にあるように、問6以降も3問が統計的に有意な違いを示しており、利用している学生の割合が学年別で異なることに対応していた。

## 考 察

### 1. 本学心理科学科の学生の ChatGPT の現状

利用実態の結果を取りまとめると、この時点ではChatGPTは15%以下の学生が利用しているにすぎず、利用している場合も、その頻度は月に数回以下と非常に低い。また、ChatGPTのテキスト生成という特徴を活かす利用の仕方にはまだ至ってはいないと考えられる。

この利用にあたって、目的が明確な利用が進んでいないという実態を反映して、利用の課題について多くの人たちから意見を聞くことはできなかった。また、利用している人たちも、まだ利用が進んでいないことから、それほど明確には意見が示されていなかったといえるが、今後、利用が増加していくであろうが、その利用に際しては他の情報も参照するなど、気を付けるべきことがあることが示唆された。

全般的に、それほどは明確ではないが、低学年と比較すれば、高学年のほうが利用がやや多い傾向がある可能性がある。しかし、4年生の授業では、卒論指導をしている学生が含まれており、ゼミ指導にあたっては、卒論

執筆にあたって、ChatGPTを活用することで、コピペによって、結果の記述などで同じ表現が続くのを避ける工夫などの活用法や、それが将来の職業生活にも役立つ可能性を伝えており、4年生では部分的にその影響もあったかもしれない。

また、現在、急速に利用が進んでおり、今後の利用の浸透によっては、利用状況が大きく変化する可能性がある。その場合、他大学で懸念されているように、ChatGPTにレポート書かせて、自分のものとして提出するなどの可能性がないわけではない。

このためには、どのように対応するのかについて、準備をしておく必要性はある。準備のひとつとしては、教員自身が、生成AIについて理解を深める必要がある。教員が、教育を企画したり、研究報告を作成したりする自分の業務についても、生成AIによって何ができるのかを理解することが必要である。

最近の報告では、ソーシャルメディアが急速に浸透しているのと同様に、生成AIが大きな社会変化をもたらす可能性があり、大学生が積極的に取り入れる意欲をもつことの重要性も指摘されている(Raman et al., 2023)。この技術が、創造性の低下ではなく、その向上へつながるためには、積極的な活用も必要となると考えられる。

### 2. 今後の課題

科学領域における会話型の生成AIの影響については、Nature誌に臨床心理学が専門のBocktingらが、ポイントをまとめている。そこでは、すでに、研究者が、①講演などの原稿の作成、②文献の要約、③論文の草稿作りや改稿、④研究課題の発見、⑤統計解析などに活用していると紹介されている。そして、今後は、⑥実験計画作成、⑦原稿の執筆、⑧査読、⑨論文採否の決定にも活用されるだろうと推測されている(van Dis et al., 2023)。

このことは、大学教員の研究活動のかなりの部分が、生成AIによって支援され、少なくとも部分的に代行されることを意味している。しかし、それが研究の質を高めるかどうかは保証されているわけではない。大学生が使用する時に懸念されるのと同じような、誠実さを脅かすことになる可能性を含んでいる。

今回の調査は、調査項目の原案を作成したのは、ChatGPTである。もちろん、全てそのままではないし、その調査を実施することを決定し、結果を分析したのは、著者であるので、研究内容の責任は著者として負う必要がある。その場合、どこの部分にどのような責任があるのかを明確に整理しておく必要がある。

大学生は、大学教員をモデルとして学問を修得してい

く。したがって、大学教員の生成 AI 利用の枠組みが決まれば、大学生をどのように指導するのがよいのかは、より明確になるはずである。そうでないと、教員が生成 AI に作成させたテストを、学生には AI の助けなしにその場で回答させるといった、笑い話のようなことに陥るだろう。

心理学に関連する実践領域としては、チャットボットによるカウンセリングの可能性も検討されている(牧野ら、2022)。また、ネットいじめという状況における、傍観者行動を変えるために、チャットボットが発話者のように参加する可能性が検討されている(植田ら、2019)。このことは、心理サービスの一部については、より信頼できるとされれば、これまで人間が行ってきたサービスが、生成 AI に置き換わる可能性があることを示唆している。そして、その技術があれば、カウンセリングを修得する教育の場面でも、患者役を代行する生成 AI のモデルが重要な果たすことができるだろう。

ちなみに、ChatGPT に、その発展によって心理サービスにどのような影響がありうるのかを予想させると、①オンラインカウンセリングの増加、②AI による心理査定、③テレヘルスサービスの充実、④現在よりパーソナライズされた治療法の提供があげられた。これを見ると、心理学専門家にとって、遠隔地からでも、また、いつでも利用可能な心理サービスを提供するためには、生成 AI の知識は必須であるように思われる。

本調査の結果からは、本学で早急に学生に向けて生成 AI についてガイドラインを出す必要性は低いように判断される。しかし、最近、学術雑誌の editorial の執筆にあたって、ChatGPT の支援を受けていることが記載され、執筆者名に ChatGPT と連記されているのを実際に目にした(Lambert, 2022)。これは、ごく一部の極端な例であるかもしれないが、生成 AI とともにさまざまな文章を作成する場合に、どのように効果的にまた倫理的に活用する筋道を整理することが、ますます必要であることを示している。

#### 謝辞

データ収集にご協力いただいた山田富美雄名誉教授と宇恵弘教授に感謝いたします。

#### 利益相反

公表すべきいかなる利益相反はない。

#### 引用文献

- Lambert, L. (2022). The tasks remain as important as ever for positive psychology. *Middle East Journal of Positive Psychology*, 8, i-iii.
- 毎日新聞 (2023/04/18)  
<https://mainichi.jp/articles/20230418/k00/00m/010/134000c>
- 牧野晃平, 二瀬颯斗, 石崎優人, 櫻井昌佳. (2022). チャット形式心理カウンセリングにおける応答率向上のための補助システム開発に向けて. *人工知能学会全国大会論文集 第 36 回* (2022) (pp.3Yin246-3Yin246). 一般社団法人 人工知能学会.
- Raman, R., Mandal, S., Das, P., Kaur, T., Sanjanasri, J. P., & Nedungadi, P. (2023). University students as early adopters of ChatGPT: Innovation Diffusion Study.  
<https://www.researchsquare.com/article/rs-2734142/v1> (参照 2023.5.5)
- Ray, P. P. (2023). ChatGPT: A comprehensive review on background, applications, key challenges, bias, ethics, limitations and future scope. *Internet of Things and Cyber-Physical Systems*.  
<https://www.sciencedirect.com/science/article/pii/S266734522300024X> (参照 2023. 5. 5)
- 東大新聞オンライン (2023 年 4 月 9 日)  
[https://www.todaishimbun.org/chatgpt\\_20230409/](https://www.todaishimbun.org/chatgpt_20230409/) (参照 2023. 5. 5)
- 上智大学ホームページ  
<https://piloti.sophia.ac.jp/jpn/article/news/general/chatgpt/> (参照 2023. 5. 5)
- 東北大学オンライン授業ガイド  
<https://olg.cds.tohoku.ac.jp/home> (参照 2023. 5. 5)
- 植田智之, 中西惇也, 倉本到, 馬場惇, 吉川雄一郎, 小川浩平, 石黒浩. (2019). いじめ仲裁を促進する発話者を装うチャットボット. *研究報告ヒューマンコンピュータインタラクション (HCI)*, 2019 (16), 1-8.
- Uludag, K. (2023). Testing Creativity of ChatGPT in Psychology: Interview with ChatGPT. Available at SSRN 4390872. (参照 2023. 5. 5)
- van Dis, E. A., Bollen, J., Zuidema, W., van Rooij, R., & Bockting, C. L. (2023). ChatGPT: five priorities for research. *Nature*, 614 (7947), 224-226.

参考表 1 ChatGPT 調査に用いた質問文と選択肢

質問文	回答選択肢
1. ChatGPT を知ったきっかけは何ですか？	①インターネットで見かけた②友人や知人からの紹介③書籍や記事④教員の勧め ⑤その他⑥知らない
2. ChatGPT を利用する目的は何ですか？	①様々な知識や情報を習得するため②自分の課題や研究に役立てるため③コミュニケーションの手段として利用するため④教育・学習の一環として⑤その他⑥利用していない
3. ChatGPT を利用する頻度はどの程度ですか？	①毎日利用している②週に数回利用している③月に数回利用している④それ以下 ⑤利用していない
4. ChatGPT の回答に対して満足度はどの程度ですか？	①非常に満足している②かなり満足している③少し満足している④どちらとも言えない⑤不満な点がある⑥利用していない
5. ChatGPT で得た知識を実際の課題や研究にどの程度活かしていますか？	①非常に活かしている②かなり活かしている③少し活かしている④あまり活かしていない⑤全く活かしていない⑥利用していない
6. ChatGPT を利用することで、自分が知らなかったことを学ぶことができましたか？	①非常に学ぶことができた②かなり学ぶことができた③少し学ぶことができた④あまり学ぶことができなかった⑤全く学ぶことができなかった⑥利用していない
7. ChatGPT を利用することで、今までの調査方法や情報収集方法が変わりましたか？	①大幅に変わった②かなり変わった③少し変わった④あまり変わっていない⑤全く変わっていない⑥利用していない
8. ChatGPT を利用する際に不便だと感じる点がありますか？	①特にない②回答に時間がかかることがある③回答が適切でないことがある④その他⑤利用していない
9. ChatGPT を利用する際に気をつけていることはありますか？	①特に気をつけていない②情報源や引用元を確認する③疑問点がある場合は他の情報源も参照する④その他⑤利用していない
10. ChatGPT に改善してほしい点がありますか？	①特にない②より高度な知識や情報に対応してほしい③回答に必要な情報が不足していることがある④その他⑤利用していない